

すみだ史談

第51号

創立三十周年を迎えて

会長 小木曾 清三

大相撲は大波乱。貴乃花親方の一月の降格に続

ります。

き、契約解除を強く申し入れた親方もいたとの情報もあるほどの三月二十八日の理事会。役員待遇委員まで降格されていた貴乃花親方は、貴公俊

二月二十日発足準備会ができたこと。一年目第一回の「史跡巡り」は大雨になったこと。十二月十日は忘年会ではなく、魚大さんで役員会として、

専念義務を拒否、無視したということで更に二階級降格の「年寄」(弟子の指導ができる)になつた。

元横綱と貴ノ岩関の傷害事件から約五ヶ月続いた貴乃花親方と相撲協会(八角理事長)の対立はこれまで決着なのかどうなるのかまだ注目である。

わずか三ヶ月で五階級の降格となつた。日馬富士

交わされたこと。平成六年十月十七日寿七十九歳で天寿を完うされた江川良一先生の後任をどうするのか?迷った刻に会長代行に五木田直先生を即

決定(十月二十七日)し危機を乗り切つたこと等々。

すみだ史談会の歴史をさまざまと知ることができました。役員として二十九年間ご苦労様でした。

さて、一方の野球界。大活躍の大谷翔平選手(23)。つい先日勝利投手になつたばかりの二日後、

これら資料も創立時から三十年間頑張つて頂いている日野秀夫先生(現顧問)にも感謝申し上げなくてはなりません。温情のある史談会だより。

本拠地「Aデビュー戦」で初ホームラン。そして翌日も連日ホームランと株は上がりっぱなしの活躍で、

当初は手書きでした、内容も丁寧な文字も日野先生ならではの今のすみだ史談会だよりの基本だと想っています。これからも見守って頂くと共に健

康に長生きしてくれる事を祈念しています。

なんと、メジャーリーの祝福、サイレント・トリー

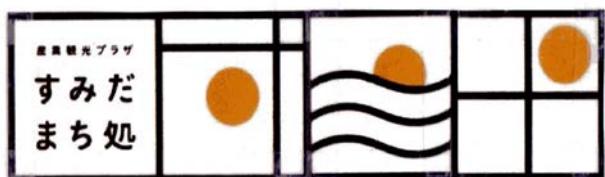
トメントというイタズラにもあつた程チームに溶け込んでいて、観ていて清々しいものを感じたのは私だけじゃないと想います。

さて、本年は三十周年に当たります。すみだ史

談会の発足当時を振り返りますと糸余曲折があるなかで三十周年を迎えることができたのも一重に

願っています。そして、都心と化す下町すみだの会員の皆様のおかげと考えます。当初から役員を人情、歴史、文化を語り継いでいきましょう。

して頂いていた、佐原洋子副会長が逝去された後、息子の滋元さんから遺品として「佐原洋子のすみだ史談会」資料を送っていました。遺品の中には設立当初の苦労や希望に満ちた文面が目立ちます。



すみだの産業、文化、歴史、観光、グルメ情報
東京スカイツリー土産
産業観光プラザ すみだまち処

開始時間：10:00～21:00

年中無休 TEL 03-6796-6341

隅田川七福神の二百年と

今後の七福神詣

高木 新太郎

一・七福神の由来と略史

福神は民間信仰であり、七つは「七難七福」という仏教の經典から来た(喜田貞吉 編著『福神』、大正九年発行、他)。『仁王護国般若波羅密教』受持品に、般若波羅密を講じ読誦すれば、七難即ち滅し、七福即ち生じ、万姓は安樂にして、帝王は歡喜す”とある。

福神の構成は変化があり、現在の形になつたのは江戸後期であろう。注意

したい福神が(ア)福禄寿と寿老人、(イ)弁財天と吉祥天である。(ア)どちらもカノープス(シリウスに次ぐ明るい恒星)の神格化で、同体異名である。(イ)弁才天は河川等の神で才能に優れ、吉祥天はヴィシュヌ神(ヒンドゥ教の三大神の一つ)の妃で、二人は仲が悪かった。その後、吉祥天の性格も弁才天に吸収されることとなり、それとともに「弁財天」と呼ばれるようになり”(白木利幸『七福神巡拝』)。両

神は習合し、吉祥天を加えた八福神がある。七福神は室町末期に京都に成立したが、その前から鞍島の毘沙門天、

比叡山の三面大黒天、西の夷三郎、竹生島の弁才天は篤い信仰を得ていた(喜田編『福神』)。恵比寿と大黒天を中心四神、そして七神へ発展したと思われる。

二・隅田川七福神の二百年の評価等※

要点のみ

(1) 隅田川七福神の二百年の根拠 喜田編『福神』に田中緑紅の論文「三

都の七福神廻り」があり、大正七年/1918年に百年記念会を行なつたと云う。今年が2018年である。

(2) 寿老人を白鬚神社に当てた「寿老神」の検討

福禄寿があるから福神上は問題ない。

隅田川七福会の説明で「寿老人が中々見付からなかつた」理由を検討したい。『七福神信仰事典』で、四方山人の江戸市中の七福神巡拝(1784年刊)を紹介する。向島の白鬚大明神等、六つお参りしたが福禄寿だけ探し出せず、星ヶ岡に登つて南極星を持んで済ませた。前述の田中論文でも福禄寿に困つた話がある。隅田川七福会(1898年結成)

の説明と矛盾に見えるが、どちらも正しいと思える。多くの七福神は神社仏閣である。四方山人はそこに焦点を絞つたのだろう。この点で百花園は革新的で、範囲を拡大した存在である。

- (3) 江戸の三大七福神
 - ① 谷中七福神は江戸最古で、宝暦年間1751~64年の成立と言われる。
 - ② 山手七福神も古く、蟠龍寺に1775年の札所標石がある。資料上は日本最古(伝承では京都)で、再開は昭和の初期。

(3) 隅田川七福神は当時の文人墨客により創始され、再開が明治と古い。

(4) 隅田川七福神の今日の評価

日経新聞(2012年12月29日)は有識者10人を対象に、推薦する七福神を聞き、ポイント化して順位付けた。上位5位は順に「大阪、谷中、都、鎌倉・江の島、隅田川」であった。

(5) 隅田川七福神の二百年の記念品

百花園で「武藏第一名所 角田川絵図 故跡附」を複製・販売した。この付近の状況がわかる。

三・「七福神めぐり」の今後の方向(要約)

社会の高齢化があり、長距離は難である。名所は諾と仮定の提案である。

(1) 隅田川七福神

ある。名所は諾と仮定の提案である。

百花園(イ)三園神社(白鬚神社)百

花園。

(2) 一ヶ所全七福神

一ヶ所全七福神(23区内で10ヶ所)

の一つである立花大正民家園を、付近の名所と併せて巡る。

夢を夢で終わらせない信用金庫
東京東信用金庫



東洲斎写楽の実像と

時代背景

にわか しやらくさい

会員 俄 写楽齋

以前から興味を持ったのは、東洲斎写楽は葛飾北斎ではないのか?との疑問からでした。ご存じのように写楽は未解明の人物です。寛政六年五月から寛政七年一月に活躍した人ですが、寛政七年の五月の舞台の肉筆画が出てきて益々謎に包まれています。

写楽が特に有名になったのは、寛政六年五月の都座・河原崎座・桐座で演じられた役者の大首絵二十八枚です。錦絵の大きさも大判(27cm×39cm)で、特長は大胆な描き方ですが、雲母摺(キラズリ)と言われるウンモが使われていることです。解説の手がかりは肉筆画が一番と言われます。肉筆画は三枚。①老人図歌川豊国の画、裸の子供とカンザシ(石水美術館)②お多福(シカゴ)これには狂歌も詠まれており、「両ほほの山高きが故に谷あいの鼻にあらしの気遣いなし」とあります。③『仮名手本忠臣蔵二段目』松本幸四郎の加古川本蔵と松本米二朗の小浪の親子の図(ギリシャコルフ島で2008年に発見され2011年ギリシャTV

で放映されました。

これら三點は1789年から1801年の作と思われますが特定されていません。不思議なのは③『仮名手本忠臣蔵二段目』です。最初に書きましたが活躍したのは寛政六年五月から寛政七年一月だったはずの写楽が、この肉筆画の舞台は寛政七年五月だからです。

写楽には色々な見解があります。寛政六年五月の都座、河原崎座、桐座の一二期。七月の都座、八月の河原崎座の三十八枚の一二期。十一月三座全部の五十八枚の三期。翌寛政七年一月の都座、桐座十余枚全百二十四枚の四期説。つまり、期によつて「写楽」本人が違うのではないか?

当然全部「写楽」だと言う人もあり説は様々です。

これには時代背景が複雑だと言うことがあります。寛政六年にスポットを当てるよりも前の、三年の寛政の大改革で芝居街は大打撃、最大の危機を迎えます。

江島生島事件で村上座が廃絶。寛永元年(1624年)創業百七十年間営業していた日本橋堺町の中村座、日本橋葺屋町の市村座、日本橋木挽町の森田座の三強が、寛政五年十一月、三座揃って櫓をあげることができず、都座、桐座、河原崎座に興行を譲り渡すことになります。つまり、控え櫓の三座で歌舞伎の一年が始まったのです。

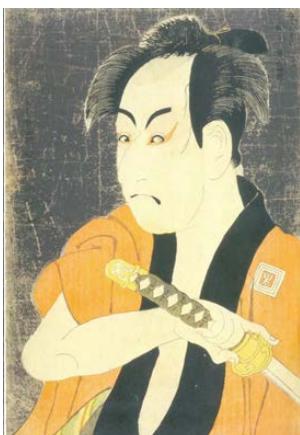
そんな時代の中、出版会は寛政三年、山東京伝の出版物が販売停止を幕府から命令され、自らも財産の半分を没収された版元であった鳴谷重三郎(1750~1797)。吉原生まれのやり手ディレクターで喜多川歌麿を育てたり、十返舎一九と仲がよかつたりしたのも有名です。

東洲斎写楽のサインの下にある極印(キワメイ)落款と鳴谷重三郎が写楽である所から鳴谷重三郎が写楽であるという説もある程、この人が関与していたことは間違いないと思います。ただ、肉筆画が1801年だとすると鳴谷重三郎説は無くなります。1797年に亡くなっているからです。

私はこう思います。四期として考えると、やはり期ごとに作者は違うのではないか?爆発的に売れた寛政六年五月の二十八枚の大首絵に限って言えば、大谷家の大谷広次、大谷徳次(中村仲蔵)、大谷鬼次、大谷此蔵(中村此蔵)のうちの誰か?ではないか。此蔵か仲蔵?どちらかと問われれば中村此蔵。大谷家の文献に東洲斎写楽の名が出てきた!大谷此蔵だとすれば家紋(マルジユウ)がよく使われる。身内が主役脇役に限らずよく描かれる。要は、此蔵自身も含め自分の身内を中心にして樂屋を写したもの。樂屋を写した「写楽」だったと考えますが、ただ今研究の真っ最中です。



三代目大谷鬼次の奴江戸兵衛



初代市川男女蔵の奴一平



扇面お多福図

すみだにできる
講演会

刀劍博物館

刀劍博物館学芸員
黒滝 哲哉

側の翼部から構成されています。公会堂のドームに変わり、頂部にはヴォールト屋根が架けられ、高さを抑えて庭園との調和を図っています。

庭園との連続性が高い一階は、ミュージアムショップ、展示・情報ラウンジ、研修室やカフェなど、気軽に立ち寄り、利用できるパブリックなスペースを配置し、庭園散策の休憩所や町歩きの拠点としても使える計画です。

二階には博物館の運営及び日本刀の審査や展示の企画を行う管理、学芸の諸室を配置します。最上階は、日本刀の展示室と屋上庭園です。

美術工芸品としての日本刀に加え、大名屋敷の庭園とともに、日本古来の武家文化を広く発信していくことをを目指しています。

刀劍博物館は昭和四十三年に公益財団法人日本美術刀劍保存協会の付属施設として渋谷区に開館しました。その博物館が、平成三十年一月に墨田区に移転、開館します。日本人の豊かな感性が武器を美術工芸品に昇華させたといわれる日本刀を保存公開し、日本刀文化の普及を目的としています。刀劍類、刀装具、甲冑、金工資料、古伝書等約三百点を所蔵し、国宝も含まれます。

移設開館する敷地は、池泉回遊式の庭園が残る旧安田庭園の一角であり、このような立地を生かし、庭園散策や地域の展示空間、名所旧跡と連携する庭園博物館として計画されました。これまで建つて来た旧両国公会堂の併まいを継承し、池に向かって張り出した円筒部とその両

障がい者と付き添い一名	無料
学生	500円
中学生以下無料	
会員 小木曾 清三	

平成二十九年度
すみだ史談会の一年

① 五月十四日
定期総会 記念講演会
「日本の伝統文化水引結道の世界」
水引職人 玉乃井 陽光氏

水引細工のおみやげも頂きました。

② 七月九日
講演会 「すみだと相撲」
相撲博物館学芸員 中村 文彦氏
ユートリヤ研修室

③ 九月十八日
講演会 「すみだ北斎美術館と北斎」
北斎美術館学芸員 五味 和之氏

④ 十一月十九日
講演会 「すみだにできる刀劍博物館」
刀劍博物館学芸員 黒滝 哲哉氏

⑤ 一月七日 歴史探訪
隅田川七福神巡り。鐘ヶ淵出発。
三國神社解散。懇親会 上總屋

⑥ 一月十一日
研究発表会 ユートリヤ研修室
「七福神について
・隅田川七福神二百年と今後」
会員 高木 新太郎氏
「写楽の実像と背景」

すみだ史談会三十周年記念式典	
日時	平成三十一年五月二十日(日)
午後四時開会	
会場	東武レバントホテル 吉野の間
会費	一万円(会員)
大勢の皆様のご出席をお願いします。	

編集後記 【募 集】

すみだ史談会は、三十年目を迎えます。

人それぞれ思い出す場面があるかと思います。その時代の歌、友人、楽しかったこと、哀しかったこと、嬉しかったこと、怒り、感動、驚きの過去。語りつぎたいこともOK。何か書いてみませんか。

三十周年を迎えるすみだ史談会の会員の皆様に原稿募集します。何字でもOK。三十周年を記念して、特集版に掲載させていただきます。

桜の満開が例年よりずっと早いとか。年経つことの早さを痛感するこの頃です。

年経つことの早さを痛感するこの頃です。

4

すみだ史談 第五十一号

平成三十年四月一日印刷発行

墨田区吾妻橋一一三一〇

墨田区役所 教育委員会

地域教育支援課文化財担当内

発行人 小木曾 清三